

共創的実践で社会を変革する博士人材 育成プログラム —大学院リーグのプロトタイプと実装— @金沢ミーティング

国立大学法人三重大学

①教育推進・学生支援機構 地域創造教育センター

アントレプレナーシップ教育部門

②研究・社会連携統括本部 知財ガバナンス部門 副部門長

③大学院 地域イノベーション学研究科

准教授

八神 寿徳

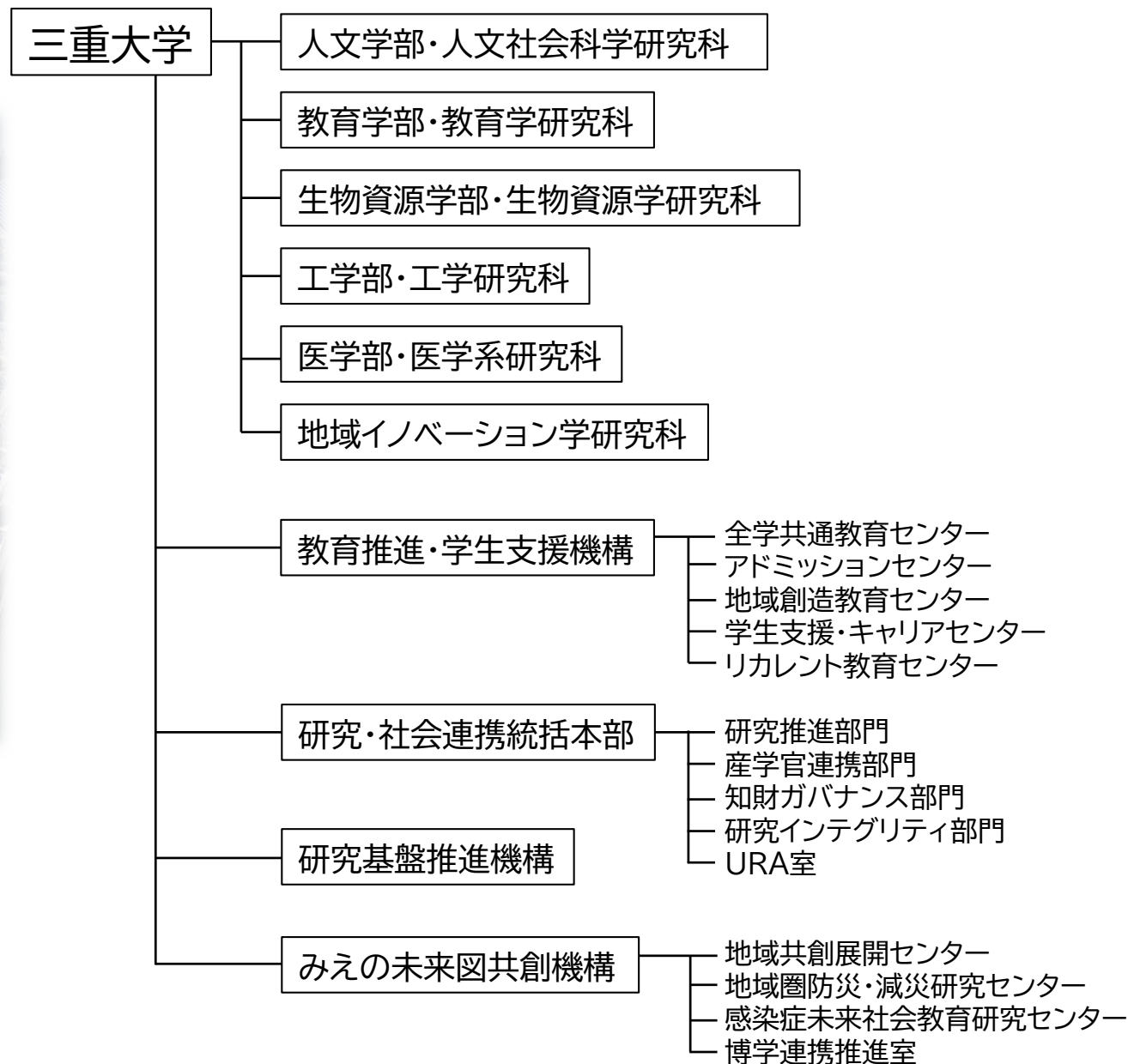


R5.5.1

	学生数	教員数
人文学部・人文社会科学研究科	1,131	64
教育学部・教育学研究科	865	72
医学部・医学系研究科	1,345	358
工学部・工学研究科	2,301	96
生物資源学部・生物資源学研究科	1,381	103
地域イノベーション学研究科	78	9
合計	7,101	702



1949年(昭和24年)5月31日
三重師範学校、三重青年師範学校、三重農林専門学校を母体として「三重大学」を設置。
設立当初は学芸学部(後の教育学部)と農学部から構成。



■2009年に設立された大学院。

■地方立脚型の企業や自治体等が抱えている課題の克服に必要なとされる学際研究を実施すると共に、産業界との連携を通じた人材教育を行うことで「プロジェクト・マネジメント (PM)ができる研究開発系人材」、地域の特性を理解しつつ、工学、バイオおよび人文・社会科学の専門知識を活用し、地域の特性を生かしながら、起業、第二創業あるいは画期的な新政策を通して「地域にゼロから1を創造できる社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)人材」を地域社会に輩出することを目指す研究科。

■「【総合知+専門知】×マネジメント力」人材育成

入学定員数と専攻・ユニット

	専攻	ユニット	入学定員数
博士前期課程	地域イノベーション学	工学イノベーション	1学年あたり 15名
		バイオイノベーション	
		社会イノベーション	
博士後期課程	地域イノベーション学	地域新創造	1学年あたり 6名

「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」、
「地域にゼロから1を創造できる社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)人材」
とは、以下の3つの能力を備えた「高度な専門的職業人」としている。

- (1) 専門分野を中心とした幅広い知識に基づく**高度な研究開発能力**
- (2) 専門分野を中心とした幅広い知識を活用して、**問題解決を遂行する能力(PMIに関する能力)**
- (3) グローバル化に対応しうる**国際感覚**

■教育研究上の理念■

- ①最先端技術の進歩が極めて速く、複数の技術分野が融合することで新事業が生み出され、グローバルに展開することが日常的である現代の社会。
 - ②中小企業群で構成されている地方産業界もグローバル化の波を受けているが、それに対応できる人材の確保には対応できていない。
 - ③三重県南部を中心に地方における少子高齢化・人口流出などによる「消滅可能性都市」があり、若者人口の流出を止め、若者が自身の手で地域を守ることを可能にする施策を直ちに講じ、「地域の自立」を目指す必要がある。
- 以上のような社会的背景に対し、地方産業界で生じている社会ニーズと大学院における教育の乖離を打破し、地方の衰退を食い止められる人材を養成する。

■本研究科の目的■

地方が求める即戦力型人材である「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」及び「ソーシャル・アントレプレナー人材」の育成に特化した教育・研究を展開することにより、高度な専門知識及び応用能力を持ち、創造性豊かな研究開発活動を進める高度専門職業人及び研究者を養成し、地域社会の将来を担う中核人材を育成するとともに、地方立脚型の企業や自治体等が抱えている課題の克服に必要な学際的研究を実施し、その成果を社会に還元することを目的とする。

(構想時の社会背景)

三重県の産業界はグローバル化に対応する海外展開、他分野への進出などの経営改革が必要であったが、開発力の脆弱さ、人材不足などが障害となっていた。

三重大学には地域産業界から新事業を開拓する人材の供給と新事業創造に繋がる共同研究への協力が求められた。

期待に応えるために「地域イノベーション学研究科」を2009年4月に新設した。



地域イノベーション学研究科の地域社会における役割

ディプロマポリシー(学位授与の方針)

「企業の基幹社員として研究開発成果を基に新事業を構築する」、「ベンチャー企業の幹部社員として研究開発成果を基に事業構築する」など、「研究開発成果を基にした事業化プロジェクトのマネジメントができる人材」。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

「高度な研究開発能力」、「プロジェクト・マネジメントに関する能力」、「グローバル化に対応した国際感覚」の3つの能力を学生が身につけられるように、特色ある教育を行っている。

各教育研究ユニットには、

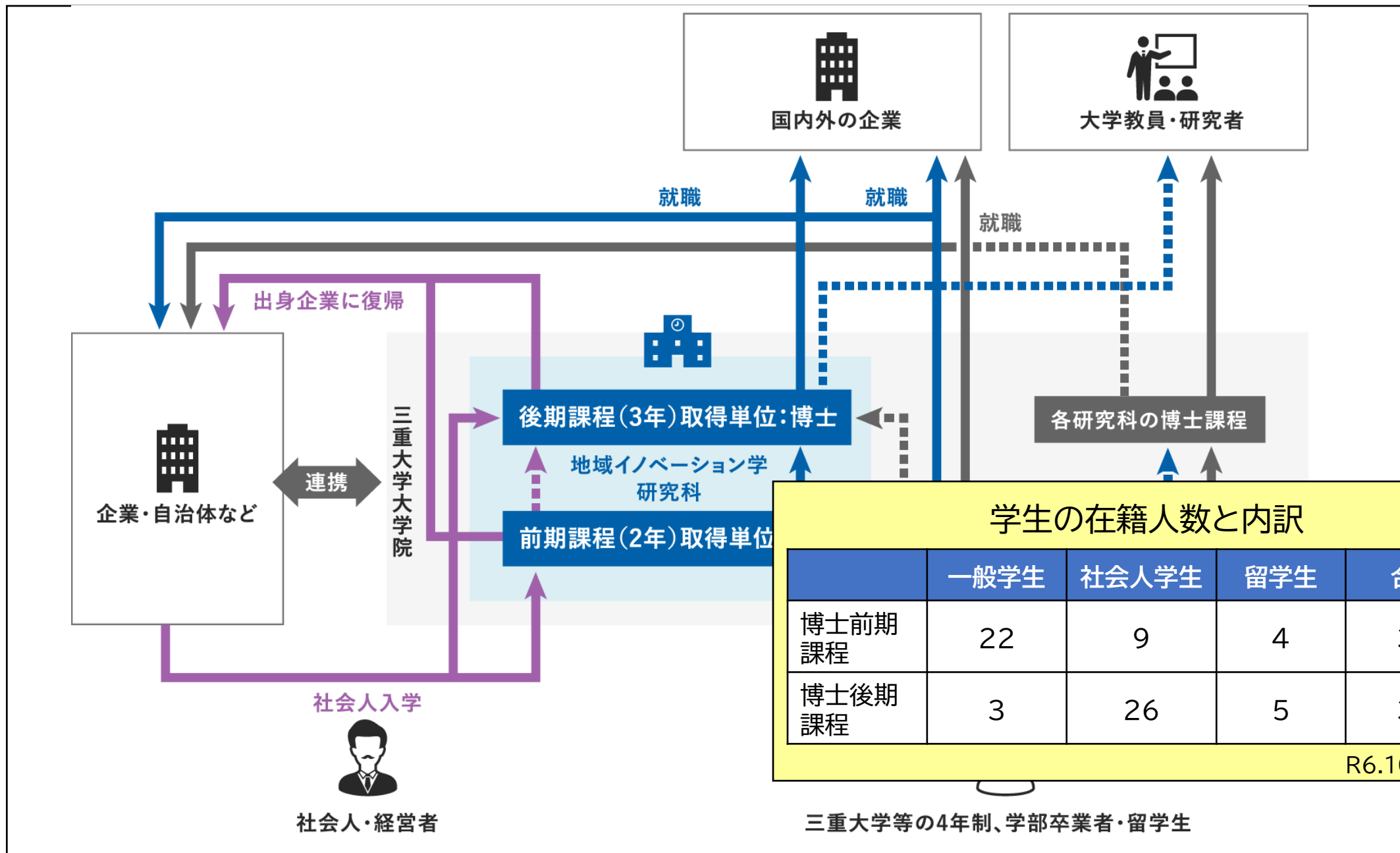
- ①基礎研究能力の養成を担当する専門教員(R&D 教員)と、
 - ②プロジェクト・マネジメント能力の養成を担当する専門教員(PM教員)
- という異なるタイプの教員を配置し、

「高度な研究開発に関する能力」と「プロジェクト・マネジメントに関する能力」とを同時並行に養成し、自立した研究者として国際レベルの研究開発や新事業の創出を責任者として遂行できる高度な研究能力とマネジメント能力を兼ね備えた人を育成するためのカリキュラムを編成している。

■総合的な科目■

3つの能力を身につけるには、地域社会の現場を体験し、種々の実験・考察をしながら、実際の事例を通して、複雑な思考をまとめ、総合的に地域イノベーションを発展させる必要がある。このような能力を育成するための授業科目も開講している。

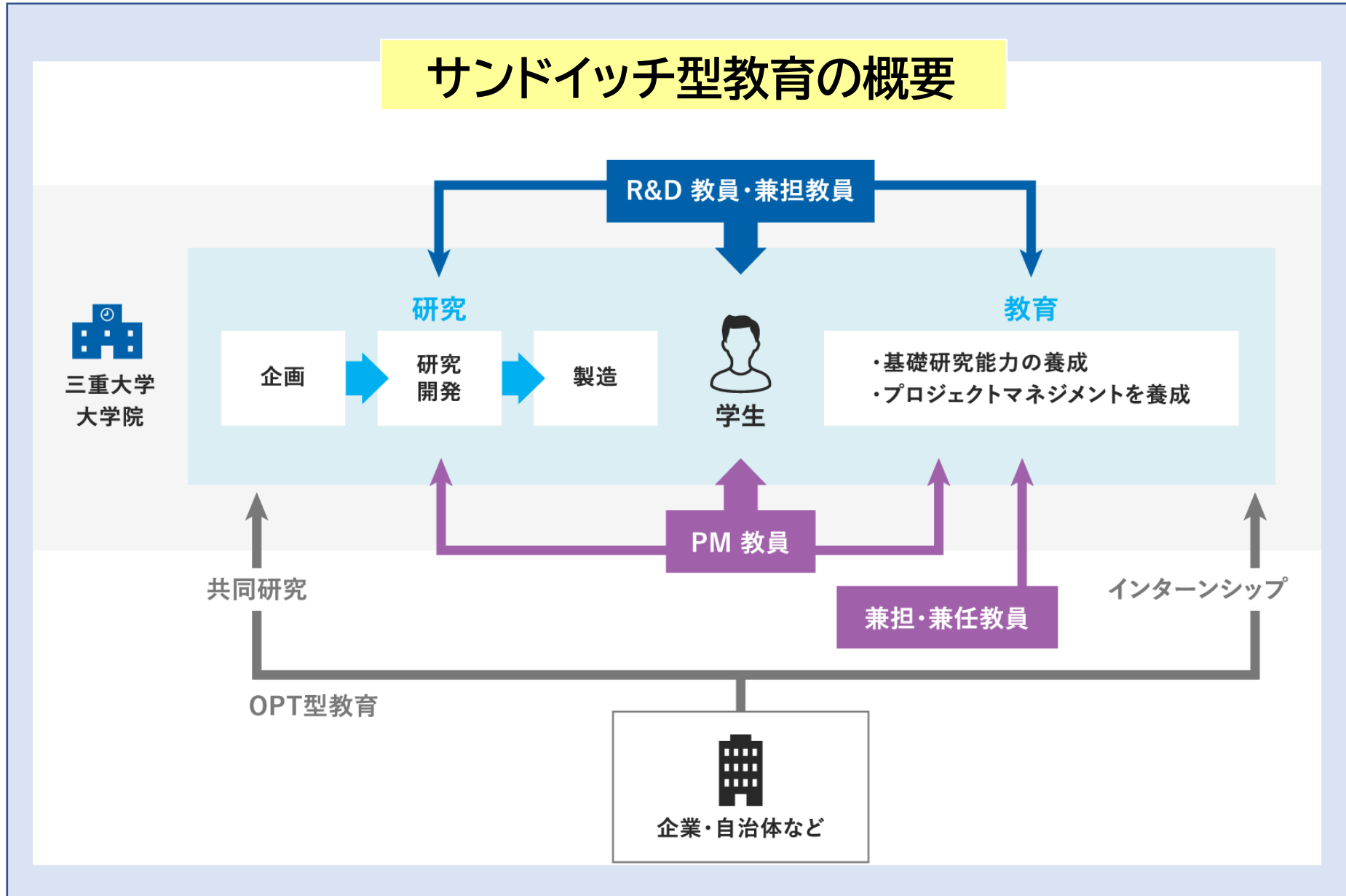
また、総合的な力を養成する「特別研究」では、R&D 教員とPM 教員が協力して1人の学生を指導する「サンドイッチ方式による教育」および地域企業や自治体等と行う共同研究プロジェクト等を題材とした「On the Project Training(OPT)型教育」という実践的な教育手法を取り入れている。





人文学部・人文社会科学研究科		博士後期 ユニット名	博士前期 ユニット名	職名	氏名	担当	担当学部等
教育学部・教育	地域新創造	工学イノベーション		教授	橋本 忠範	R&D	工学部
生物資源学部				教授	丸山 直樹(副研究科長)	R&D	工学部
工学部・工学研				教授	西村 訓弘	PM	地域イノベ研究科
医学部・医学系				教授	水藤 弘吏	R&D	教育学部
地域イノベシ				准教授	八神 寿徳	PM	教育推進・学生支援機構
				教授	小林 一成	R&D	研究基盤推進機構
兼務		バイオイノベーション		教授	野中 章久	R&D	生物資源学部
				教授	諏訪部 圭太(研究科長)	R&D	生物資源学部
				教授	矢野 竹男	R&D	地域イノベ研究科
				准教授	加賀谷 安章	R&D	研究基盤推進機構
				准教授	狩野 幹人	PM	研究・社会連携統括本部
				教育推進・学生			
研究・社会連携							
研究基盤推進機							

博士後期 ユニット名	博士前期 ユニット名	職名	氏名	担当	担当学部等
-	社会イノベーション	教授	安食 和宏	R&D	人文学部
地域新創造		教授	森 久綱	R&D	人文学部
		教授	松田 裕子	R&D	地域イノベ研究科
		教授	青木 雅生(副研究科長)	R&D	教育推進・学生支援機構
		教授	浜田 吉司	PM	教育推進・学生支援機構
		准教授	加藤 貴也	PM	地域イノベ研究科
		准教授	水木 千春	R&D	地域イノベ研究科
-	准教授	洪 性旭	R&D	人文学部	



主にPMの能力の向上に関連する科目

専門科目
14単位以上

1年	2年	3年
必修科目 4科目(6単位)		
地域新創造マネジメント特論 I (2単位)	地域新創造マネジメント特論 II (2単位)	
	地域イノベーション学演習(1単位)	
グローバルコミュニケーション演習(1単位)		

選択科目 4科目(8単位)以上

工学イノベーション実践特論(2単位)		
バイオイノベーション実践特論(2単位)		
社会イノベーション実践特論(2単位)		
地域新創造特論 I ~ XII(各2単位)	インターンシップ研修(2単位)	

特別研究 8単位

必修科目 1科目(8単位)		
特別研究(8単位)		

合計 22単位以上

R&D教育だけでなくPM教育も行いながら、「独立した研究者」として研究活動が遂行できる高度な基礎研究能力と研究開発マネジメント力を修得させる。

地域イノベーションを的確に理解し、
地域発のイノベーションを牽引する
人材として実社会で活躍できる。

地域発のイノベーションを牽引する中
心的な人材として実社会で活躍できる。

	養成				
	高度な研究開発に関する能力		プロジェクト・マネジメントに関する能力		グローバル化に対応した国際感覚
	知識 ^a	実践力 ^b	知識 ^a	実践力 ^b	理解力 ^a
地域新創造マネジメント特論 I	○		○	◎	
地域新創造マネジメント特論 II	○	○	○	◎	
地域イノベーション学演習	○	○	◎	○	
グローバルコミュニケーション演習					◎

国際感覚に基づいた研究開発・プロジェクトマネジメント能力を身に付けるための素養を得ることができる。

地域発イノベーションの誘発に貢献できる人材となるための素養が身に付く。

- ①地域イノベーションの基礎の確認のためのオンデマンド授業の受講
- ②西村ゼミなどへの参加

地域イノベーション学研究科で学んだ主な経営者たち



(博士論文題目)同族経営から同志経営へ

2015年3月 博士号取得(2009年4月入学)
(株)マस्याグループ本社 代表取締役社長 浜田吉司さん



(博士論文題目)
ビール製造への利用を目的とした香気生産野生酵母
の香気特性および実用性評価に関する研究

2017年3月 博士号取得(2012年4月入学)
(有)二軒茶屋餅角屋本店 代表取締役社長 鈴木成宗さん



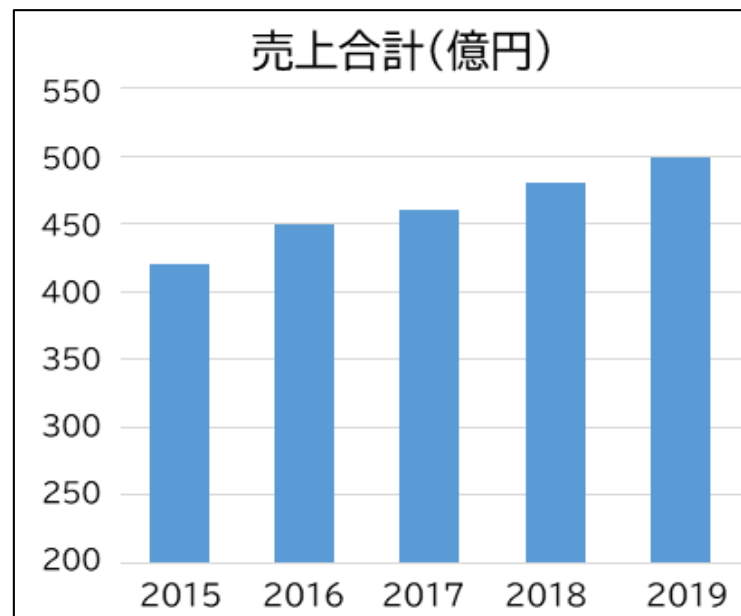
(博士論文題目)
病害抵抗性トマトの育種によるトマト栽培における収
益性改善に関する研究

2016年3月 博士号取得(2010年4月入学)
(株)浅井農園 代表取締役 浅井雄一郎さん



(博士研究題目)
観光地に立地する中小飲食店の プロセス・イノベ
ーションに関する事例研究

2022年3月 博士号取得(2016年4月入学)
(有)ゑびや 代表取締役社長 小田島春樹さん



大学院で学んだ経営者たちの企業業績の推移



発行: 月兎舎

修了後も三重大大学の教育に携わってもらう循環を形成

- ・大学院教育だけでなく、学部教育、リカレント教育にも
- ・客員教員、非常勤講師、ゲストスピーカーなどとして

地域イノベーションが目指すイノベーションの姿

Innovationとは、新しいアイデアから**社会的意義のある新たな価値を創造し**、**社会的に大きな変化をもたらす**自発的な人・組織・社会の幅広い変革を意味する。



INNOVATION

地方が目指すべき
イノベーションの姿



小文字のinnovationの集積で
社会を大きく変革する

『シュンペーターが提示した 新結合が出現する姿』

*シュンペーター 孤高の経済学者- 伊東光晴・根井雅弘著 岩波新書を参照

シュンペーターによれば、**新結合は群生して現れる**という。なぜなら、「一人あるいは数人の企業者の出現が他の企業者の出現を、またこれがさらにそれ以上のますます多数の企業者の出現を**容易にする**という形で作用する」からである。